07

みんなのまなびば
み館

地域のみんなのための
〝まちのリビング〟

み館
西彼杵郡長与町嬉里郷592-1
月～土(13:00～17:00)
無料
どなたでもご利用頂けます
不要
きょうしつ参加についてはホームページから申し込み
社会福祉法人ながよ光彩会
095-865-7755　mikan@mi-kan.jp
https://mi-kan.jp/

こども食堂　イベント　多世代交流
遊び体験　フリースペース

み館　GOOOOOOOD STATION　かがやき

社会福祉法人ながよ光彩会の紹介

社会福祉法人ながよ光彩会は、地域福祉の充実を目指し、障がい者・高齢者支援など幅広い事業を展開しています。「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指し、福祉施設の開放や多世代交流など地域密着型の支援が特徴です。

その象徴的な取り組みのひとつが、「み館」です。福祉と地域が融合する場として、子どもから高齢者までが共に過ごし、学び合う空間を創出しています。「こどもの居場所」としての機能も重視しており、学校や家庭とは異なる、多様な価値観に触れることができる場所として、地域の子どもたちにとっても貴重な場となっています。

活動のきっかけと目的

み館は“まちのリビング”というコンセプトをもとに生まれました。高齢者福祉の現場で培った知見を活かしながら、世代を超えて人と人とが自然に関わり合う場を作りたいという想いがその出発点です。従来、福祉施設は利用者とその関係者だけが出入りする閉ざされた空間であることが多かったのですが、「福祉施設が地域に開かれることで、地域全体が支え合いの場となるのではないか」と考え、その実践として「み館」が誕生しました。

また、地域における「こどもの居場所不足」も、この活動の背景にあります。近年、共働き世帯の増加や地域コミュニティの希薄化により、放課後や休日に子どもたちが安心して過ごせる場所が減少しています。み館では、そうした子どもたちが気軽に訪れ、遊びや学びを通じて健やかに成長できる環境を整えています。

活動のアピールポイント

「み館」では、子どもたちが単に受け身で過ごすのではなく、主体的に関わることができる仕組みを取り入れています。そのひとつが、子どもたち自身が「せんせい」となり、自分の得意なことを他者に教える機会を設けている点です。たとえば、料理が得意な子が他の子どもたちに簡単な料理を教えたり、絵が得意な子がワークショップを開いたりと、自然な形で「まなびば」が生まれています。

また、多世代交流を重視している点も特徴です。高齢者施設の利用者や地域の大人たちが“ななめの関係の大人”として子どもたちの活動を見守りながら、時には一緒に参加することで、多世代が関わり合う環境を作り出しています。こうした関わりの中で、子どもたちはさまざまな価値観や経験に触れ、社会性を養っていきます。地域住民が主体的に関わることで、支援の受け手と支え手の境界をなくし、福祉をより身近なものにしています。

課題と今後の展開

講師(せんせい)という肩書きは地域の方には高いハードルのようで、引き受けて頂くことを遠慮されてしまうことや、学び・居場所づくりを共に支えてくれる担い手不足が課題です。民間企業が自主運営するみ館のような公益事業は、今後ますます求められてくるものと思います。運営資金の確保を行いながら、今後も信頼構築を重視して多世代交流を充実させ、子どもから高齢者まで全員が共に育つ居場所づくりを推進していきます。

まとめ

「み館」は、地域と福祉をつなぐ新たな試みとして、多世代が交わる場を提供し、こどもの居場所づくりにも力を入れています。今後も地域住民と協力しながら、誰もが安心して集える場を作り続け、「誰一人取り残さない社会」の実現を目指してまいります。